

# 深化する英語授業 後半

## ～新アプローチの実践と具体事例～

松蔭中学校・高等学校 篠原 弘樹

### 【著者より】

私たち教員の授業で生徒たちは成長し、未来の可能性が広がっていく。学習指導要領の「思考・判断・表現」が表す通り、英語の授業でも思考力を育み、実践的なパフォーマンスを高めることが求められています。新しい時代における授業を検討する際に、学習指導要領に従い、何か1つでもお役に立てれば幸いです。またNote(右下QR)でも、他の実践例や取り組みを紹介しているので、ご参考ください。今回のレポートは前半と後半の2部構成です。前半は訳読の限界から転換を行い、そこからどう考えていくかの部分、後半はTOEFL Junior®のスコアレンジも踏まえて、どう実践していくかの具体的な事例を紹介します。合わせて、ご確認いただければ幸いです。

### 【2部構成】

深化する英語授業(前半)～訳読の限界から新たなアプローチへ～

深化する英語授業(後半)～新アプローチの実践と具体事例～

### 【読み手】

- 英語教育に関心・情熱のある方
- 検定対策(特に英検のライティングやTOEFL Junior®)に苦慮する先生
- ちょっと新しい活動を取り入れてみたい先生
- もう1歩先の英語力を見据えて教えたい先生



【Note:篠原 弘樹】

1. TOEFL Junior®スコアレンジに基づく活動案	p.1
1.1 生徒のレベルに合わせた実践的なリスニング理解のアイデアと実例	p.1
1.2 生徒のレベルに合わせた実践的なリーディング理解のアイデアと実例	p.4
2. 授業計画プラン表に基づく「知識・理解」からの授業展開方法	p.8
2.1 知識・理解+αの文法・語彙の実践例	p.8
2.2 タイミング・教科横断・学外連携、実社会・自分事に関わる活動の実践例	p.10
2.3 協働の学習が当てはまる時	p.13
3. 最後に	p.14



# 1. TOEFL Junior® スコアレンジに基づく活動案

まず初めに授業内の1番の基本となる「知識・理解」に注目し、TOEFL Junior®のスコアレンジをベースに授業案の考え方と検定教科書を使用

した具体的な授業の事例（リスニング・リーディング）を紹介する。

	個人	協働	☑項目
メッセージ性(教室外)			ICTの有効性/取り組みやすさ
メッセージ性(教室内)			自律的学習 計画・姿勢
創造的思考			自己成長 肯定・効力・向上
思考力・判断力			実社会・自分身
知識・理解	☑		タイミング 教科横断・学外連携

↑ ICTの有効性

## 1.1 生徒のレベルに合わせた実践的なリスニング理解のアイデアと実例

TOEFL Junior®のリスニングのスコアレンジとパフォーマンスを簡単にまとめると以下となる。

リスニング スコアレンジ	パフォーマンスの説明
290-300	長めのスピーチで、学術的か一般的かを問わず内容を理解し、趣旨を理解できる。イディオムも一部理解可能で、話し手の情報利用方法も理解できる。
245-285	長めのスピーチで、学術的か一般的かを問わず、簡単な英語で文脈が明確な場合に趣旨を理解し、重要ポイントを特定できる。一般的なイディオムも理解可能。
210-240	短いアナウンスの趣旨を理解できる。短いスピーチや会話では、明確な表現や強調されている場合に重要ポイントを理解できる。シンプルな英語で文脈が明確な場合には内容を推測できる。
Below 205	アナウンスや簡単なスピーチの趣旨と重要ポイントを理解できるよう練習が必要。シンプルな英語で話された内容を正しく言い換える練習が必要。

\*公式から出ているものを抜粋

さらにこの情報を分解すると、以下のようにまとめられる。

リスニング スコアレンジ	タグ	情報利用*	文脈 (状況理解)	重要ポイント (話の流れ)	語彙 理解	初見での リスニング理解
290-300	①	○	○	○	○	高い
245-285	②	?	?	○	○	比較的高い
210-240	③	?	?	?	○	中程度
Below 205	④	?	?	?	?	低い

\*情報利用：話し手が、その伝えたい内容をどう利用しているかの部分。

例えば、論理構成で話の流れを明確にしていたり、情報を比較していたり、根拠を提示していたりなど。

スコアレンジの高い生徒は、初見でもそれがどんな状況での話で、話の流れ(例：苦節⇒練習⇒成功⇒メッセージ)といった全体の流れも理解し、どの部分が重要なのが分かる。そして、語彙の理解も高く、〇〇の部分は〇〇の根拠を提示しているのだな、という状況である。その一方で、低いスコアレンジの生徒たちは、ある部分を補わなければ、そのリスニングの内容を十分に理解できないということを示している。つまり、授業設計という点で考えるのであれば、活動において生徒が理解できない部分を補うような授

業設計を行うと、リスニングの内容理解が深まるというわけである。表に応じて言うなら、表の「？」を補うような設計を行えばよいというわけである。

1つ注意すべきは、各レンジに合わせた教材を選べばよいというわけではない。もちろん、その考えは大事だが、TOEFL Junior®にしる、それ以上のTOEFL iBT®のリスニングしる、状況は同じである。極端に言うと、中学1年生の長めのリーディングを中学1年生と高校1年生で利用するのは、全く違う。きっと、さきほどの表ではこのようになる。

	タグ	情報利用*	文脈 (状況理解)	重要ポイント (話の流れ)	語彙 理解	初見での リスニング理解
高1	①	○	○	○	○	高い
	②	?	?	○	○	比較的高い
	③	?	?	?	○	中程度
中1	④	?	?	?	?	低い

さらに言うと、例えばレンジ290-300をとる高校1年生に国際政治論など母国語でも知識のないような内容の教材を扱うとする。その場合は、どうアプローチするかと言われれば、TOEFL Junior®でスコアレンジの1番高い部分に属してしようが、私は間違いなく私はタグ「④」のBelow 205と同じ状況と捉えて、授業案を考える。

つまり、リスニングのスコアレンジに応じた活動を行うというより、その教材の内容に応じて、足りない部分を補足するような活動を計画して

**実施することが大事である。**使う教材によっては、当然、指導クラスにとって簡単だったり、難しかったり、という場合がある。そういう場合は、教材があっていないというのではなく、表に基づいた活動案を考えていけば良い。そして、色々な学びを得ることで、自然とリスニングスコアが上がって行けばよい。あくまでも教材ベースで考え、この教材の難易度はこのぐらいだから、こういう授業を行う。そういう考え方を持つことで、上手く授業案を考えていけるのである。

### 【考え方】

今の担当生徒の検定を見ると、能力的にはCEFRA2程度がボリュームゾーン。なので、教材がA2レベルのリスニングなら、タグ「②」や「③」のアプローチで、難しいB1レベルであれば「④」という状況だから、リスニング理解の授業では工夫が必要、という具合に捉えてから、授業案を考える。今一度言うが、スコアレンジはTOEFL

Junior®の難易度内でできることをあらわしているのであって、もちろん教材の難易度によってそれは変わる。レンジとパフォーマンスが伝えているのは、リスニングとして段階的にできていくべきものを示すので、あくまでも教材の難易度に応じて、不足している部分を補うトレーニングして行くのが自然な流れである。

実際に検定教科書の内容を用いて、タグ「①」～「④」のリスニング活動案について紹介する。

教科書内容：New Rays I いずな書店

対象：高校1年生

語数：約600words, 英語のレベル：CEFR A2~B1あたり。

### Chapter 1 : The Future is Yours (未来はあなたのもの). 内容(要約)

ニューヨーク出身の日本文学専門家、ロバート・キャンベル氏の自伝的エッセイで、彼が成長した多文化なアパートでの経験やフランス滞在、そして日本文化への興味に焦点を当てている。また、彼が日本語と文化の学習の重要性を強調し、未来には新しい経験に好奇心を持ち、冒険心を持って取り組むことが大切だと伝えている。若者たちには自分の夢を追求する姿勢を持って欲しい。

#### 【タグ①】

初見でも内容理解がさっと終わるレベルなので、事前情報なしにリスニング活動を行い、重要なポイントのみ押さえて、別の活動(参考：3.1 ~ 3.3)を取り入れた活動をあいた時間で行う。

#### 【タグ②】

##### 活動①(情報利用・文脈理解)

ロバート氏について知っていることを聞く。

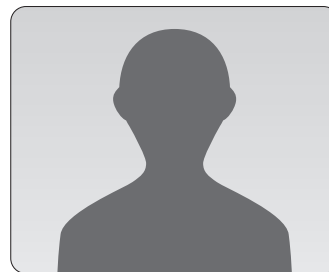
##### 活動②(情報利用・文脈理解)

5Wで質問を作成して投げかける。

何している人?どこでみる人?出身は?

なぜ日本にいる?など。

#### Chapter 1: The Future is yours



Who?  
Where?  
What?  
Why?  
When?

#### 【タグ③】

##### 活動①(情報利用・文脈理解)

ロバート氏について知っていることを聞く。

##### 活動②(情報利用・文脈理解)

5Wで質問を作成して投げかける。

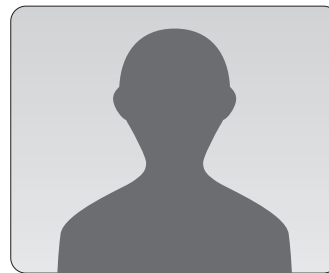
##### 活動③(重要ポイント)

5Wで質問したことやタイトルから話の流れを予測させる。

きっとこの人は何かきっかけがあって日本にきたんだろうね。

タイトルがこうだから、どんな話と思う?

#### Chapter 1: The Future is yours



Who?  
Where?  
What?  
Why?  
When?

What kind of story?



【タグ④】

活動①(情報利用・文脈理解)

ロバート氏について知っていることを聞く。

活動②(情報利用・文脈理解)

5Wで質問を作成して投げかける。

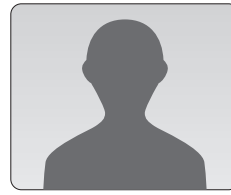
活動③(語彙理解)

ワードクラウドを表示し、キーとなる単語の理解

活動④(重要ポイント)

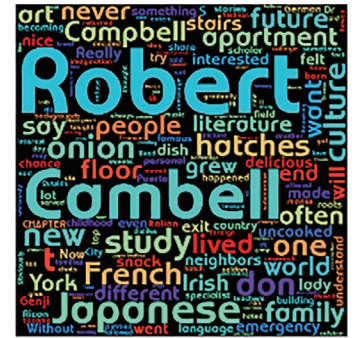
5Wで質問したことやタイトル、また語彙理解から話の流れを予測させる。

Chapter 1: The Future is yours



Who? Where?  
What? Why? How?

Message!



このように考えると、授業活動も広がり、どのレベル帯でもレベルに応じた事前準備を行うことで、リスニングの適切な理解を促す活動が行え

る。あくまでも生徒のレベルと教材の関係性を捉え、その中からTOEFL®で求められている力を伸ばしていくのが重要である。

## 1.2 生徒のレベルに合わせた実践的なリーディング理解のアイデアと実例

リーディング理解の活動についても同様である。

TOEFL Junior®のリーディングのスコアレンジを簡潔にまとめると以下となる。

スコアレンジ	パフォーマンスの説明
290-300	学術的か一般的かを問わず、趣旨を理解可能。複雑な英語を含む文章も理解できる。重要ポイントを正確に理解し、著者の意図を効果的に推測できる。比喻や知らない単語の意味を文脈から把握できる。
245-285	学術的か一般的かを問わず、趣旨を理解可能。文脈が不明確でも重要ポイントをおおむね特定できる。著者の意図を的確に推測できる場合がある。フィクションの出来事やあらすじをおおむね特定できる。知らない単語の意味をおおむね把握できる。
210-240	学術的か一般的かを問わず、趣旨を特定できる場合がある。シンプルな英語で文脈が明確であれば、基本的なポイントを特定できる場合がある。日常かつ一般的な語彙を用いた非定型の文章から基本的な情報をおおむね見つけることができる。文脈から知らない基本的な単語の意味を把握できる場合がある。
Below 205	シンプルかつ明確な英語で書かれた文章の趣旨と重要ポイントを特定する練習を行う。シンプルかつ明確な英語で書かれた文章から内容を推測する練習を行う。非定型の文章から基本的な情報を見つめる練習を行う。文脈から知らない単語の意味を把握する練習を行う。

リーディング スコアレンジ	タグ	趣旨 理解	情報 利用*	文脈 (状況理解)	重要ポイント (話の流れ)	語彙 推測	リーディング 理解
290-300	①	◎	◎	◎	◎	◎	高い
245-285	②	○	?	○	○	○	比較的高い
210-240	③	?	?	?	○	?	中程度
Below 205	④	?	?	?	?	?	低い

見方によっては、そうではないという部分もあるかもしれない。しかし、端的にいうのであれば、理解度が低いというのであれば、それは、上部の欄が押さえられていないというのは、非常に納得がいく。そして、先ほどと同様のタグに応じて、リーディング理解の活動(主に教員からの発話)で理解の促進を促していけば、生徒たちの理解

も含まり、自然と上部の欄の知識も増えていく。

表の上部のそれぞれの具体的な発問をまとめると以下となる。当然ではあるが、これらの発問は、TOEFL Junior®の試験でも出題される設問なので、教員が意識して行うことで検定対策にもなる。

#### 趣旨理解:

- この文章の主題は何ですか?
- この文章の目的は何ですか?
- 著者が述べたいメッセージは何ですか?

#### 情報利用:

- ここでは何と何を比較していますか?
- これは何の根拠となる事例ですか?
- この情報は、他の部分とどのように関連していますか?

#### 文脈(状況理解):

- 著者の何者ですか?立場は何ですか?
- この文章が書かれた状況や出来事は、いつどこででしょうか?
- 文章の中で言及されている○○は、どのような時代や場所に関連していますか?

#### 重要ポイント(話の流れ):

- 先ほどの文章は苦難を紹介している部分でした、ここでは何を伝えていますか?
- 著者が重要だと考えているポイントやキーメッセージは何ですか?
- この文章の中で重要な出来事は何ですか?それはなぜ重要だと考えられますか?

#### 語彙理解:

- 行目の○○は、どんな意味でしょうか?
- 行目の○○は、英語でいうと○○という感じです、どういう意味でしょうか?
- 行目の代名詞○○は、何をさしていますか?
- ここでの○○は、どういう意味でしょうか?

もちろん、こちらに内容把握に関する発問も加える。そうすると、今のレベルの生徒たちへどういう部分を意識した発問が、より効果的に生徒を伸ばしていけるかがよく分かる。具体的に検

定教科書の内容を用いて、レベル別に発問を考えるならば、このような質問を授業準備として行って実施する。

状況：高校1年生で、先にリスニング活動を行い、そこからリーディングの活動に入る。リーディングでの内容理解は、フレーズや文と一緒に音読しながら、適宜説明する。

## CHAPTER 1 The Future Is Yours by Robert Campbell

### 【Part 1】

I was born in New York City and grew up in an apartment building there. My family, with Irish roots, lived on the top floor. People of German, Italian, and Puerto Rican backgrounds lived on different floors. When I climbed the stairs to our apartment, I often ran into people on the other floors. They said “Hi!” to me and sometimes offered me tea and sweets. I liked my neighbors and had nice chats with them. I gradually got interested in foreign cultures.

Each apartment had an emergency exit. When I felt sad, I went through it and sat on the emergency stairs for a while. For me, the exit was like the hatch of a submarine. Outside, I often felt like I was in another world, a world of imagination.

### 【タグ①】

- (1) OK, then, let's read together, Part 1. で、一緒に音読。当該箇所になれば、以下の質問。
- (2) Where did he live when he was young? (文脈理解)
- (3) What is “run into”? Please try to act with your friend. (語彙理解)
- (4) What is “the hatch of a submarine”? Why does he say it? (情報利用：例えの理解)  
⇒さっと終わり、次の活動に移る。

### 【タグ②】

- (1) OK, then, let's read together, Part 1. で、一緒に音読。当該箇所になれば、以下の質問。
- (2) Where did he live when he was young? (文脈理解)
- (3) What kinds of people lived there? (内容・文脈理解)
- (4) What is “run into”? Please try to act with your friend. (語彙理解)
- (5) What made him interested in foreign cultures? (重要ポイント(話のながれ))
- (6) What is “the hatch of a submarine”? (情報利用：例えの理解)
- (7) Where is “the hatch of a submarine” for him? (情報利用：例えの理解)
- (8) Why does he say it? (情報利用：例えの理解)

### 【タグ③】

- (1) What is the title of this text? (趣旨理解)
- (2) OK, then, let's read together, Part 1. で、一緒に音読。当該箇所になれば、以下の質問。
- (3) Where did he live when he was young? (文脈理解)
- (4) What is "roots"? I have Japanese roots, but Mr ○○ has different roots. Where is he from?  
(語彙理解)
- (5) What kinds of people lived there? (内容・文脈理解)
- (6) What did he get from his neighbors? Was it good for him? (内容・文脈理解)
- (7) What is "run into"? Please try to act with your friend. (語彙理解)
- (8) What made him interested in foreign cultures? (重要ポイント(話のながれ))
- (9) What is "go through"? This is the image. Let's do it together. (語彙理解)  
(手でgo throughのイメージをみせ、一緒に行く)
- (10) What is "the hatch of a submarine"? (語彙理解、情報利用：例えの理解)  
A submarine is a ship that can go under the sea. The hatch is the door of a submarine.  
What are they?
- (11) Where is "the hatch of a submarine" for him? (情報利用：例えの理解)
- (12) Why does he say it? (情報利用：例えの理解)

### 【タグ④】

- (1) What is the title of this text? (趣旨理解)
- (2) OK, then, let's read together, Part 1. で、一緒に音読。当該箇所になれば、以下の質問。
- (3) Where did he live when he was young? (文脈理解)
- (4) Where were you born? (語彙理解)
- (5) OK, let's review. This is a text about Robert Campbell's now? or past? (文脈)
- (6) What is "roots"? I have Japanese roots, but Mr ○○ has different roots. Where is he from?  
(語彙理解)
- (7) Irish people live in Ireland. Where is that? In Asia? (語彙理解)
- (8) What kinds of people lived there? (内容・文脈理解)
- (9) What did he get from his neighbors? Was it good for him? (内容・文脈理解)
- (10) What is "run into"? Please try to act with your friend. (語彙理解)
- (11) What made him interested in foreign cultures? (重要ポイント(話のながれ))
- (12) What is "go through"? This is the image. Let's do it together. (語彙理解)  
(手でgo throughのイメージをみせ、一緒に行く)
- (13) What is "the hatch of a submarine"? (語彙理解、情報利用：例えの理解)  
A submarine is a ship that can go under the sea. The hatch is the door of a submarine.  
What are they?
- (14) Where is "the hatch of a submarine" for him? (情報利用：例えの理解)
- (15) Why does he say it? (情報利用：例えの理解)
- (16) One more time, is this his story about when he was an adult? or young?



上記は一例ではあるが、教材の難易度が高くなればなるほど、英語での説明や「やりとり」の活動を多くとり、できるだけ英語で理解できるような活動を行っていく。その一方で、難易度が優しいとなれば、さらに進み、他の活動へとつなげていく。

ポイントとなるのは、教材の難易度と生徒のレベルに応じた指導。そして、その関連を見抜いて、必要となるスキル(文脈理解、情報活用の理解、

語彙理解など)を踏まえた、発問をどんどんと行い、「やりとり」の練習をも行いながら、内容理解をすすめていくことである。闇雲に発問を行うのではなく、これは文脈の理解を深める発問、これは趣旨理解の質問、という風に考えて、表に関わる項目の質問を投げかけることで、多種多様な発問が生まれ、受講して答えていく生徒も多くの学びを得るようになるので、効果的かつ効率的にリーディングの力を育成していくことができる。

### 【英語の発問作成に困ったら】

困ったら教科書データをChat GPTにいて、上のリスニングやリーディングのスキルの観点で発問となる問題を作成してくださいと入力すると、

色々なヒントが得られる。そのまま使うのは難しい場合が多いが、ヒントとなる発問はたくさんいただけるので参考になると思う。

## 2. 授業計画プラン表に基づく「知識・理解」からの授業展開方法

「1」では「知識・理解」の活動を中心に授業案を紹介した。ここでは、そこからどう授業を広

げていくかを紹介する。最初に「文法・語彙」を取り上げ、その他の活動を紹介する。

### 2.1 知識・理解+αの文法・語彙の実践例

まず、先ほどと同様にTOEFL Junior®の文法・語彙のスコアレンジでの能力を簡単にまとめると以下となる。

文法・語彙 スコアレンジ	パフォーマンスの説明
280-300	難しい文法構造や学術的な単語を理解できる。文章の効果的な段落構成も理解できる。
250-275	基本的な文法は理解できるが、難しい文法は苦手。一般的な語彙を持っているが、学術的な内容は難しい。
210-245	一般的な内容に関しては基本的な文法を理解できることもあるが、学術的な内容は難しい。
Below 205	一般的な語彙を増やし、基本的な文法と文章構成を理解する練習が必要。

当たり前のことではあるが、スコアレンジが高い生徒は、語彙があり、文法の力がある。レンジが低くなるにつれて、その知識量が低い。総じていえば、単語と文法の定着率が異なるという、それだけをあらわしている。それが分かり切っているなら、文法理解と単語量の定着を上げれば良いとなるが、それが上手いかないのが、実際の現場に立つ教員の声ではないでしょうか。

文法に関しては、小学校から学んできて、基本的な部分がなかなか定着しない。詰まる度に何度、不定詞の用法を黒板に板書したことだろうか、そしてその度に授業進行の計画が崩れ、時間がなくなる。かといって、説明しないわけにはいかない。そんなジレンマが頻繁におこる。

かつての私も実際にそうだった。どうすれば授業内で時間をあまりとらず単語や語彙の定着を促していけるか、そんなことばかり考えていた時期があった。

そのような実体験も含めて、文法・単語の学習でお薦めの活動を2つ紹介する。1つは、「知識・理解」だけに焦点をあてず、その他の項目をも合わせた活動で、もう1つは、さっと復習ができて授業内の時間を確保する方法である。

まず1つ目の方法は、簡単に言えば、取り上げる文法や表現をまずは理解し、その後その表現で自分のことを書くことである。そしてクラス内で共有し、教員は最後に添削を行う、という方法である。

	個人	協働	☑項目
メッセージ性(教室外)			ICTの有効性/取り組みやすさ
メッセージ性(教室内)	☑		自律的学習 計画・姿勢
創造的思考	☑	☑	自己成長 肯定・効力・向上
思考力・判断力	☑	☑	実社会・自分事
知識・理解	☑		タイミング 教科横断・学外連携

**ICTの有効性**

### 具体例：現在完了の継続

**指 示：**では、現在完了have+過去分詞+for /sinceを用いて、あなたの自身のことを書きましょう！ただし、あまりみんなに知られていないことにしましょう。「え、そうだったの？」と思われるようなことがベストです。知らない人に自分のことを伝えるイメージで書いてください。その後、グループで、英語で発表して、最後に書いた紙を回収します。

**生 徒：**I have ( ) for / since ( ) .

まず、文法や単語の意味は理解しただけでは、使えない。定着のための練習が必ず必要なのは、誰しもが感じている部分である。何度も復習することによって、定着するというのも事実である。ただ、その言葉を自分事として捉えて、他者へのメッセージとして伝えるならば、なおさらリアルな状況を作り出せるので、表現の定着も早くなる。そして、聞いているクラスメイトの英語を理

解する練習にもなる。また、教員が添削で大きく赤で○をつけるという行為も大事である。手書きで、○をつけられた紙が、「できた感」を生徒たちに与え、生徒たちも自信をもっていく。中高の先生方であれば、どれほど生徒との信頼関係が、生徒の学習率と相関するのは、誰しもが理解する点であろう。そういう意味でも、教員が文通的に生徒とのコミュニケーションとり、生徒たちの

信頼を獲得し、肯定感をあげていくのは大事である。些細なことかもしれないが、そういう流れを授業内に取り入れるのは非常に重要である。

また、添削というハードルが高いと思われるが、それも教員の指示の仕方によって調整できることを忘れてはならない。 毎回毎回の授業で、多くの文を添削するというのは、仕事量の負担を増すだけである。スコアレンジが低い生徒が中心のクラスであれば、上記の例のようにピンポイントで文法を捉え、自由度を制限する。そうすることで、余計な添削も減り、負担も減り、良いメリットのみが残る。高いレンジの生徒であれば、自由度の制限をさらに増やしたり、書く行数を増やしたり、で分量を増やしていく。添削の負担を考えると、スコアレンジに応じて、自由度の設定を調整すれば良いだけである。提出することによって「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料としても使用できる。

2つ目のお薦めは、「文法・下敷き」的なものを作ることである。特に時間がもったいないと思

うのは、過去の文法の復習ではないでしょうか。心の中で「それ、前やったやん!、また説明必要??」と思うことが何度あることか、そういう場合に備えて両面で1枚にまとめた文法シートのなものを準備し、復習する時には、随時、それを見て音読という方法である。例えば、不定詞であれば、右のようにまとめて、副詞的用法の説明が必要と思う場合には、「はい、文法シート、42番、一緒に読むよ、3, 2, 1 ~、そう、それと一緒にの文法!」という具合に進めると一瞬で、文法事項の復習も終わる。そして、時間が確保でき、その他の活動にもつなげられる。

## 6 → 不定詞 『to+動詞の原形』

★名詞的用法 『~すること』

※名詞の代わりになる。

41. → My hobby is to read the book. 趣味は、本を読むことです。

★副詞的用法① 『~するために』『~して』

※副詞は動詞や形容詞を修飾する。

42. → Mr. Shinohara went to Canada to study English.

→ 篠原は、英語を勉強するために、カナダに行った。

43. → I was very glad to hear the news.

→ 私は、そのニュースを聞いて嬉しかった。

## 2.2 タイミング・教科横断・学外連携、実社会・自分事に関わる活動の実践例

教科書の内容理解を越えて、活動案を考える場合、タイミングを1つの観点として持つと活動の幅が広がる。例えば、ある検定試験の1週間前に検定試験対策の授業を行うのと、3ヶ月前に行うのでは生徒のモチベーションが全く違うの

は想像しやすい。それと同様、生徒のタイミング（その時期だからこそ）のものを活動にいれると、非常に教育効果の高い活動を行うことができる。先ほど紹介した検定教科書を例にとる。

時期：高校1年生の1学期

教科書：New Rays I, Chapter I: The Future Is Yours

状況：高校受験を終え、高校生になったという新しい気持ちでいっぱい。高校生になったら〇〇をしたい、新しい環境で、新しい友人がたくさん。中学の基本的な学習内容を終え、大人らしい価値観ができてくる時期。

	個人	協働	☑項目
メッセージ性 (教室外)			ICTの有効性/ 取り組みやすさ
メッセージ性 (教室内)	☑		自律的学習 計画・姿勢
創造的思考	☑		自己成長 肯定・効力・向上
思考力・判断力	☑	☑	実社会・自分事
知識・理解	☑	☑	タイミング・教科横断 学外連携

ICTの有効性

私であれば、この状況を間違いなく利用する。

今だからこそ、できる活動があり、今だからこそ定着するものがある。

そんな思いを授業の活動案に入れる。

**活動内容：**好きな格言を見つけ、英語にしてみんなに伝えよう。

**状 況：**Chapter 1のリーディングの内容把握が終わった後。

**指 示：**では、今回のReadingではロバート・キャンベルさんが、Be curious and adventurous.

The future is yours.という若物への素敵なメッセージを残しています。カッコいいですね！  
では、皆さんは高校生になった今、どういう気持ちで高校生活を過ごしていきたいですか？  
そんなカッコいい言葉(モットー)を作りましょう、調べても作ってもOK！最後はつくったものをみんなで共有しましょう。

こんな活動を行うことにより、もちろん生徒たちは自分のことを振り返り、思考・判断し、なおかつ答えのないものに対して、自分の答え(考え)を提示していく。そして、自分が気に入る言葉を英語で言うことで、当然ながら、その英語は定着しやすい。また、人となりを紹介することになり、それはメッセージ性を強くもったものとなる。

教科横断の手法もタイミングと同様である。  
例えば、国語科と連携することを考えると、一番

連携しやすいのは、国語の論理や文章の書き方の部分。高校1年生で、国語科で序論・本論・結論の構成と、中学で学んだ具体と抽象(文章の書き方として情報は抽象度の高いものから具体的なものへと流れる)を復習するならば、それと合わせて、英語でエッセイを作成する。さきほどと同様のテーマにするならば、このような活動が考えられる。

**指 示：**では、今回のReadingではロバート・キャンベルさんが、Be curious and adventurous.

The future is yours.という若者への素敵なメッセージを残しています。カッコいいですね！  
では、皆さんは高校生になった今、どういう気持ちで高校生活を過ごしていきたいですか？  
そんなカッコいい言葉(モットー)を作り、それを選んだの理由を2つ考えて、序論・本論(理由①、理由②)・結論の形で書きましょう。でも、書き方は思い出してください。国語で、情報は抽象から具体へ流れると学びましたね。そこは守りましょう。

教科横断というと難しく捉えられてしまう傾向があるが、国語と英語は言語であるので、意見を論理的に考えて表現するという部分では同じである。国語だけではなく、英語でも同じことを連携して行えば、定着も早くなるのは間違いがない。

先ほどは、国語の論理、つまり言葉のスキルとも言えるもので、教科横断の事例を紹介したが、テーマで教科横断する方法も考えられる。そうい

う場合は、是非、他教科のシラバスを見て欲しい。必ず何かしらの教科とリンクできる部分がでてくるはずである。例えば、本校では高校1年生で公民の授業がある。そのシラバスをみると、1学期には倫理で、「日本の伝統と文化に関する諸概念」ということを扱っている。そうなれば、当然、日本文学者のロバート・キャンベル氏とつながりがないわけではない。



実際、教科書の本文にもそれに関連する記述がある。

Some knowledge of the language, history, and culture of a country is necessary to study that country's art.

そうなる、そこにつながる活動を実施する。

**指 示：**ロバートさんは、日本の文化を理解することなしには、日本の芸術を理解できないと言っているのだけど、そもそも日本文化って何かな？日本らしさって何かな？世界的に認知されている日本文化をグループで調べて、まとめて発表してください。

学外連携でも同様である。

オンライン英会話で学外とつながることもあれば、高大連携の授業でつながることもある。最近、よく導入されているオンライン英会話を用いるなら、こんな形での利用も可能である。

**状 況：**リーディングが終わり、自分の好きな言葉(モットー)を考えた後の活動

**指 示：**では、オンライン英会話で、担当の先生に好きな言葉(モットー)をインタビューしましょう。ただし、考えた自分のモットーを紹介できるようにもしておきましょう。自分がインタビューするのだから、相手も当然 How about you?になります。準備して、取り組んでください。

また、自律学習や計画や姿勢を養う要素を入れるのであれば、週末課題として家族や学外の知人や大人にインタビューをして、自分が共感できるものを次の授業で準備するようすすめる活動を行う。

**状 況：**リーディングが終わり、自分の好きな言葉(モットー)を考えた後の活動

**指 示：**では、週末にご家族や学校以外の知人に好きな言葉を聞いてきてください。週明けにはそれをグループで話し合うので、聞いた中から1つ、とても共感できたものを選んでおいてください。紹介し合うので、その理由も考えておいてくださいね。

という具合である。

このように紹介すると、それを全部英語で行うのはハードルが高いと感じられると思う。もちろん全部行うのは、時間がかかる。生徒の英語力によっても変わる。生徒の英語力が高くなければ、その範囲でできるもの(例：好きなモットーを調べて英語にして発表)を行い、高いレベルの生徒がいれば、より難易度の高いもの(好きなモ

ットーを小論文形式で理由もつけて作成&グループで発表など)を選べばよい。重要なのは、活動そのものよりも、「知識・理解」の活動が終わった後に、どう活動を広げるかである。そこにこういう視点をもって考えると、より効果的な教育活動を行えるということである。



## 2.3 協働の学習が当てはまる時

最後に協働の学習について述べると、協働のグループ学習は、目的に応じてその都度、導入していくのが望ましい。究極のアクティブラーニングは、生徒が寝ないこと。これは、ある先生の言葉であるが、非常に興味深く、個人的に大好きな言葉である。個人的に生徒に寝られるような授業を行いつづけるのは、教員として失格だと思う。大人でも1時間、ずっと座りっぱなしで聞く

だけの講座は辛い。寝させないには、どうすればよいかと聞かれたら、「注意する?叱る?」。そんな方法で、子どもたちがついてくるはずがない。そんな時には、協働の学習、所謂グループ学習を授業内に組み込んでいくと、活動に幅もでてきて、生徒たちも活発になっていく。目的別に状況をまとめると、このような時に協働の学習を組み入れると、授業にメリハリがついていく。

### 知識・理解を深める場合

- リスニングで聞き取った部分の共有
- リーディングで大事なポイントの共有
- 演読(理解を深め、その著者になりきって、読む)

### 難題に立ち向かう場合

- これまでに考えたこともない難題を出す場合(日本文化とは何?)
- ちょっと難しい課題で他者との協力なしでは完遂できない場合(全員で要約を考えよう)

### 共同編集で精査する場合

- 全員で情報を持ちより精査する活動(もちよった要約の完成など)

### 意見の共有で刺激を相互享受する場合

- それぞれに答えがあるような課題を出す場合(自分のモットーは何?)

### どこにもない創造物をつくる場合

- 0の状態から1を作る活動(クラスでモットーを決めるなど)
- 群読(みんなでより良い読み方を考察し、朗読する)

大人が1コマずっと話す授業は、生徒にとっては苦痛でしかない。協働の学習を行うと、授業中に寝てしまう生徒の数も減り、内容の知識・理解を深め、協働の力もはぐくんでいくことができ

る。もっと、他にも色々なメリットがあるとは思いますが、まずは上のこんな時に協働の学習をいれる、という視点をもって、授業内で活用していくと上手く機能していく。

### 3.最後に

このレポートでは、訳読中心の授業からその先へのつながる授業計画を立案するためのプラン表を紹介しました。その後、TOEFL Junior® のスコアレンジに基づいて、「知識・理解」の活動事例を紹介しました。リスニングとリーディングの双方で重要なのは、生徒のレベルと教材のレベルを考慮して、内容理解のために不足している部分を補完するためのアクティビティを組み込んでいくことです。このスコアレンジだからこうというわけではなく、あくまでもスコアレンジと教材の関係を見ることで、適切で効果的な内容理解の指導がうまれていきます。その後は、「知識・理解」の活動から、どう多種多様な活動へと広げていくかの考え方と事例を紹介しました。提案しているこの授業計画プラン表は、**教員にとって、思考力を育成する授業を展開するための授業を計画するための考えるツールとなっています。**

前半のレポートでは、思考力の重要性を述べました。思考力の付け方の正解はと聞かれたら、その回答はとても難しく何が正解かは分かりません。しかし、少なくとも言えるのは色々な異なる視点から物事を考えて、それを表現していくトレーニングをしていくことが重要なのは間違いありません。**提案した授業計画プラン表に基づいて、授業を実践すれば、それは生徒たちが多種多様な視点で物事を考える授業にもなっています。**例えば、タイミングに関しては自分の視点と教材の視点を調和させる必要があり、クラスの発表においては他者の視点も考慮することが大切です。こうしたアプローチを通じて、異なる視点から物事を捉える力が、思考力と個人的成長の促進につながるに違いありません。

前半のレポートでも記載していますが、レポートの大部分は自分自身の教授経験に基づいており、私は本格的に教育大学院などで教育学を学

んだわけではありません。普段から考え、色々な研修に参加させていただいて学んだ知識を授業に活かしていきながら、最終的にたどり着いたものです。そのため、言葉の定義や曖昧な部分が多々あると思います。ただ、それでも、提案の授業計画プランに従って考えると、生徒の思考力や人間力を伸ばす新しい活動案が生まれてくると思います。

私たち教員は、やはり教員として、生徒たちが授業中に活発に興味深く取り組んでいる姿を見ると、とても幸せになります。個人的には、生徒たちが楽しそうに授業を受けて、なんだか楽しかったと思ってくれたら、その授業は成功だと思っています。もちろん、時には失敗することもあります。現代は探究、探究と言われる時代です。私たち教員も授業を探究し、失敗する姿を見せて次につなげていけば良いのではないのでしょうか。新しいチャレンジをしていく先生は、その点でも手本となり、素晴らしいと思います。一緒に生徒の思考力や人間力を伸ばす授業を考えていきましょう！お読みいただいて、少しでも新しい活動案が出てくれれば幸いです。

## 著者紹介

**篠原 弘樹** 松蔭中学校・高等学校 グローバル・ストリーム主任、英語科

1979年兵庫県生まれ、大阪大学大学院文学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学  
大学院では英語学（語用論、語法研究）を専門とし、英語教育ではESP(English for Specific Purposes)教材  
開発に携わる。

高校・大学非常勤を経て、2013年度より現職へ。

マイクロソフト認定教育イノベーター 2022-23 (MIEE : Microsoft Innovative Educator Expert)